「偽りの神とまことの神」　イザヤ書　41 章 21 節～29 節

2024.4.14　礼拝

序論）

世の中には『この世の宗教は全部同じゴールを目指しているものであって、仏教であっても、神道であっても、キリスト教であっても結局は同じもので、ただそのゴールに通じる道が違うだけだ。』という人がいます。

そのようにいう人達にしてみると、私達が信じている聖書の神様、創造主なる神様と、日本でいわれている八百万の神は結局、同じものだということになります。さて、それは本当にそうなのでしょうか。

今日の箇所は、イスラエルの神、ヤコブの神である【主】ご自身が、この世の偽りの神に向かって挑戦状を叩きつけ、この世の偶像とご自身の違いを明確にされている箇所となっています。

１）【主】からの挑戦状

まずは 21 節から 24 節の箇所を読んでみましょう。この箇所は【主】から偶像への挑戦状となっています。一気に読むと【主】のことばの意味がわかりにくいので 1 節ずつ短く説明をしながら読んでいきたいと思います。まずは 21 節

41:21 あなたがたの訴えを出せ。　　――【主】は言われる――
　　あなたがたの証拠を持って来い。――ヤコブの王は言われる――

【主】なる神様から偶像と偶像を信じる民への挑戦状です

「あなた達が信じている偶像が本当の神だというのならば、その証拠を示せ」とそういっておられるわけです。続いて 22 節

41:22 持って来て、後に起ころうとする事を告げよ。
　　前の事は何であったのかを告げよ。
　　そうすれば、われわれもそれを心に留め、後の事を知ることができるだろう。
　　または、来たるべき事をわれわれに聞かせよ。

「持って来て」というのは偶像を持ってきてということです。【主】は偶像と偶像に仕える民に対して、それらが本当の神であることの証拠として、「後に起ころうとする事」つまり、「未来のことについて偶像をもってきて、その偶像に預言させよ」と言われています。この要求は次の 23 節でも同じなの事が求められますが、【主】

なる神様の言い方は非常に挑戦的です。【主】は偶像が世界の真理を預言することなんてできないということをわかっておられるので、彼らに対して非常に皮肉的なアドバイスをしておられます。それが中盤の『前の事は何であったのかを告げよ。そうすれば、われわれもそれを心に留め、後の事を知ることができるだろう。』という部分です。これはですね。『もしお前が世界の真理を知っている本当の神であるのならば、まずは過去にどんなことがあったのかを思い出してみなよ。そうすれば、過去の延長線上にあることとして未来のこともわかるんじゃないのか』という皮肉です。

皆さん、『ラプラスの悪魔』ってことばをご存知ですか？　これはフランスの数学者ピエール・シモン・ラプラスが言ったことが元になっています。ラプラスは『この宇宙の全てを完全に把握することができる悪魔がいたとて、その悪魔が、宇宙のすべての粒子の位置と運動量を正確に知っており、さらにすべての粒子にかかっている力を知っているのならば、この悪魔は過去と未来のあらゆる出来事を計算できるはずだ』といいました。まぁ、数学や物理の理屈上の話としては確かにこの世界のすべての存在とその存在にどのような力がかかっているのかがわかるのならば、その力を逆算すれば過去のことがわかるようになり、普通に計算すれば未来のことがわかるのかもしれません。でも、世の中にはラプラスの悪魔は存在しません。過去のことを全て把握して、未来のことを計算できるような存在などいないのです。

当然、それはこの世の中の偶像も同じです。私達は過去のことならばわかると思い込んでいますが、この世の中に過去のことを完全に理解している人なんているでしょうか。いません。たった 70 年前の戦争の時の出来事だって人によって言っていることが違ったりします。それは悪魔や偶像だって同じなのです。

この世界をお造りになった神様、創造主なる神様以外、過去のすべてを知り、未来の全てを知っておられるお方は誰もいません。神様として過去も未来もすべてを語ることができるのは、まことの神様だけなのです。

だから、23 節でも同じようなことが言われています。

41:23 後に起ころうとすることを告げよ。そうすれば、われわれは、あなたがたが神々であることを知るだろう。良いことでも悪いことでもしてみよ。そうすれば、われわれはともに見て驚くだろう。

ここも偶像に対して「**後に起ころうとすることを告げよ。**」つまり『未来のことを預言してみよ。』と【主】が挑発されています。先ほどは、過去から未来を計算して

告げてみよという内容でしたが、23 節は、偶像自体が自分から何かをやってみて、それを未来のこととして語ってみよ。と言われています。
　ご存知の通りに、人間の手で作られた偶像は自分から行動を起こすことはできません。仏像が勝手に動いたりとか、何かを喋ったりとかしませんよね。いわゆるオカルト的な話であったとしても、そういった像が涙を流したとか、髪の毛が伸びたとか、そんな程度の話しかありません。実際に能動的に動いたなんて話にはなりません。それはなぜかというと、偶像は動けない存在だからです。だから、神様はその動けない偶像に向かって、『良い事であっても、悪い事であっても、自分で未来をつくりだして、それを預言してみなよ。』とそういわれているわけです。

　つまり、偶像は知性において過去から未来を推察することもできない無知な存在であり、力においても自分からは何もすることができない無力な存在なのです。だから、【主】は言われます。24 節

41:24 見よ、あなたがたは無に等しい。あなたがたの行いは空しい。あなたがたを選ぶ者は忌まわしい。

　偶像は無に等しい、空しい存在であり、その偶像を選んでそれに仕える者も忌まわしい存在なのです。ここでいう『忌まわしい』とは、偶像のような無に等しい存在により頼もうとすることを【主】は徹底的に嫌っておられる。ということです。
　逆をいうのならば、【主】はそのような空しい存在ではなく、中身のある存在。まことの神様により頼む者になってほしいと思っておられるということなのです。

２）【主】の証明
　だから、【主】はご自身が偶像のように空しい存在ではないことを示されました。それは何かというと、偶像にはできなかった「後に起こることを告げる。」とういうことです。ことによって、【主】は、ご自身がまことの神であることを示されたのです。それが 25 節から 27 節です。
まずは 25 節から

41:25 わたしが北から人を起こすと、彼は来て、日の昇るところから、わたしの名を呼ぶ。彼は長官たちを漆喰のように踏む。陶器師が粘土を踏みつけるように。

　これはペルシャの王キュロス王のことですね。キュロスはバビロンを滅ぼし、ユ

ダヤ人を解放した人物です。この預言が語られた当初、つまり、紀元前 700 年頃のイザヤの時代にはペルシャの王キュロスなんて存在は生まれてさえいません。彼は、紀元前 539 年、つまりイザヤの時代から約 150 年後に実際にバビロンを打ち倒し、イスラエル人たちを捕囚から解放しました。

しかも、神様はここで「彼は来て、日の昇るところから、わたしの名を呼ぶ。」といわれていますが、事実、この預言の通り、本来、異邦の民であり、まことの神様を知らないはずのキョロス王が『天の神、【主】は、地のすべての王国を私にお与えくださった。この方が、ユダにあるエルサレムに、ご自分のために宮を建てるよう私を任命された。』と言っています。それはイザヤの時代から 150 年後の書物、エズラ記 1 章 2 節に書かれているのです。

【主】なる神様はまさに、150 年後に起こる後のことをここで預言されていました。これは時代を超えて存在され、過去も未来も、すべてを知っておられるまことの神様だからこそ語れることではないでしょうか。

当然、これは【主】がだれか別の存在から教えてもらって語ったことではありません。26 節

41:26 だれが、初めから告げて、われわれが知るようにしたか。だれが、あらかじめわれわれに告げて、『それは正しい』と言うようにしたか。告げた者は一人もなく、聞かせた者も一人もなく、あなたがたの言うことを聞いた者も一人もいなかった。

誰も神様にキョロス王のことを教えたり、「これが正しい未来におこる歴史ですよ。」と示したりすることはできません。ただ、【主】だけがすべてを知っておられて未来を預言されたのです。だから、27 節でこのように言われています。

41:27 わたしが最初にシオンに『見よ、それらはここにある』と言い、わたしがエルサレムに『良い知らせを伝える者を与える』と言った。

みなさん、私達は過去も、未来も正確なことはわかりません。でも、【主】なる神様は、世界の最初から、時間的な最初ということではなくって、理屈的な最初から、全ての物事がはじまる前から全てのことを知っておられ、そして、このように聖書記者たちを用いて書かれた聖書のことばを通して、私達に『良い知らせ』と与えてくださるお方です。

そして、この良い知らせのもっとも代表的なものこそ、救い主イエスキリストについての預言であり、その預言の通りキリストによって成就された救いの出来事です。まことの神様である【主】は、キリストがどのように生まれ、どのように苦しめられ、そして、どのように復活されるかを預言されました。そればかりか、どのようにこの地上に再び来てくださっているかさえも、預言して教えてくださっています。それがいわゆるメシア預言といわれるものです。イザヤ書にもキリストの十字架の受難を預言している有名な箇所があります。それがイザヤ書 53 章ですが、ここではその中の 10 節をお読みしたいと思います。

イザヤ書 53:10 しかし、彼を砕いて病を負わせることは【主】のみこころであった。彼が自分のいのちを代償のささげ物とするなら、末長く子孫を見ることができ、【主】のみこころは彼によって成し遂げられる。

これはキリストが苦しむという預言ですが、しかし、同時に私達にとっては良い知らせです。なぜならば、このキリストの犠牲によって私達が救われるからです。旧約聖書にはこういったメシア預言がいっぱいあります。

そして、メシア預言以外にも、創世記 15 章をみてみると【主】はアブラハムに対して彼の子孫が異国で奴隷となり、後に大いなる財産を持って解放されることが告げられ、出エジプト記にはその通りになったことが書かれています。

また、今、私達がイザヤ書で読んでいたように、アッシリア帝国の力と衰退についても預言され成就していますし、バビロン帝国によるバビロン捕囚とそのバビロンの滅亡についても預言され、成就しています。

また、エゼキエル書 26 章 3-4 節にはツロの町が多くの国々によって攻められることが預言されていますが、事実、アレキサンダー大王がツロの町を徹底的に攻撃し、攻め滅ぼしてしまいました。

このように【主】は実際的に後に起こることを何度も預言し、その通りに歴史は動き、ご自身が本当の神であることを証明されているのです。

3）偽りの神は答えることができない

これはすべてを知っておられる【主】なる神様だからできることであり、偶像にはできないことです。だから、【主】なる神様は改めて偶像のむなしさを主張されています。

28 節、29 節を読みましょう。

41:28 しかし、見回しても、だれもいない。彼らの中には助言者がいない。わたしが尋ねても返事のできる者が。
41:29 見よ、彼らはみな偽りで、そのなすことは空しい。彼らの鋳像は風のようで何もない。」

先にみたように、【主】なる神様は非常に挑戦的に、あるいは挑発的に偶像に語りかけました。「本当の神なら後に起こることを語ってみよ」と。
でも、偶像はその神様の挑戦に答えることはできないし、誰も偶像に助言を与えて助けることはできません。なぜならば、偶像だけでなく、偶像に仕える者も結局は無知で、無力だからです。

みなさん、例えばですね。眼の前に実践経験豊富で、様々な天候トラブルなども乗り越えてきて、広大な畑の世話をして、何度も受賞するような美味しい野菜をたくさん作れるプロの農家さんがいたとして、眼の前にそのような人がいるのに、なにも知らない素人に野菜の作り方を聞く人がいるでしょうか。
素人は、どうすれば野菜が育って、美味しくなり、病気や虫から野菜を守ることができるのかをしりません。普通ならばそんななにも知らない素人に聞くよりプロの農家さんに野菜の作り方を教えてもらいますよね。

でも、偶像礼拝をしている人というのは、全部を知っているプロの農家さんを無視して、何もしらない素人に野菜の作り方を教えてもらうような、意味のない愚かなことをしているのと同じなのです。そんな知恵も力もないようなものに頼るということはどれほど無意味で空しいことでしょうか。
みなさん、なんの知恵も力もない偶像に頼るということは、そのように空しいことなのです。だから、【主】はそういった人たちのことを指して、『彼らの鋳像は風のようで何もない。』と言っておられます。

まとめ)
みなさん、世の中の偶像は、結局は知恵も力もない無力で空しいものです。だから、そういったものに騙されないようにしましょう。
たとえ、占いとか預言とかあたっているように思えたとしても、それは曖昧な表現でどうにでも受け取ることができるようなものであり、いくらでも訂正できるも

のなのです。

　例えば、一昔前はノストラダムスの大予言とか、マヤの予言とか、そういったものがはやりました。もう 12 年前のことですが、私が富川に赴任したてのころ、マヤ預言によると「2012 年 12 月 21 日に人類が滅亡する」と言われていました。ところが、その予言は的中せず、その後、「よく計算してみたら 2012 年ではなく 2015 年だった」という説もでてきましたが、結局、12 年たったいまでも世界は滅亡していません。

　世の中の偶像や、世の中の偽りの預言はほとんど、そのようなものなのです。

　しかし、聖書は違います。聖書を書くように導かれた【主】は、世界のはじめからすべてを知っておられ、預言を通して何度も後のことを告げられ、そのことごとくが成就しています。今現在、キリストの再臨の預言以外、聖書にかかれている将来のことを示す預言はすべて成就しています。
　なぜでしょうか。この聖書の預言を書くように示された神様は、この世界をお造りになった創造主なる神様であり、世界のすべてのことを知っておられ、ご自分の計画の通りに、実際的に御業をなすことが出来る神様だからです。

　だからこそ、私達は偶像の神ではなく、このまことの神様により頼み、このお方に導かれる歩みをしましょう
　それこそが、私達が空しい人生ではなく、みのりある人生を過ごすための方法なのです。真の神様に従う道を選びましょう。